

第 1 章

計画策定に 当たって

1	策定の趣旨	2
2	計画の位置付け	3
3	計画期間	5
4	市の概況	6
	(1) 位置・面積・地形	6
	(2) 歴史	7
	(3) 人口	7
	(4) 世帯	10
	(5) 産業構造	11
	(6) 市の財政	11



1 策定の趣旨

教育は、個々人の人格を磨いて個性・能力を開花させることで、一人ひとりの人生を豊かにするとともに、地域の持続的な発展を担う人材の育成をも支えることから、重要な社会基盤の一つです。

今、高度情報社会の到来、グローバル化*の進展等、急激な社会変化のうねりの中で、社会が求める人物像が、ますます多様化・専門化していることを背景に、教育行政においては、安定性・継続性に留意しつつも、21世紀型の資質・能力の育成等、社会変化を見据えて適切に対応することが不可欠です。

さらには、超高齢社会*の進展、産業構造の転換等により、本市の行政経営は、より一層厳しさを増す見込みであることから、教育行政であっても決して聖域とせず、効果的・効率的に運営することが肝要です。

そこで、第2次豊田市教育行政計画の計画期間の終了に伴い、本市の教育のより一層の振興をめざして、国・社会の動向や本市の現状と課題を十分に踏まえながら、教育行政の方向性を明らかにするとともに、真に必要な取組を着実に推進するため、新たな豊田市教育行政計画を策定します。



2 計画の位置付け

本計画は、学校教育*、生涯学習、スポーツ、文化財及び文化芸術の各分野を包含する、本市の教育行政における基本的かつ総合的な計画であり、教育基本法の規定に基づき、地域の実情に応じて定める、教育の振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、本計画は、本市のまちづくりの方向性を明らかにする豊田市総合計画を上位計画とする教育分野の個別計画であるとともに、市長が定める教育施策の根本的な方針である豊田市教育大綱を実現するための具体の行動計画に位置付けます。



*学校教育のうち幼児教育については、豊田市子ども総合計画に位置付けるため、本計画の範囲外とします。

第8次豊田市総合計画との関わり

第8次豊田市総合計画では、本市の将来都市像として「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を掲げ、人と人、人と地域・自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。

総合計画の各取組は、知ること、気づくこと、認め合うことなどによる「学び合い」によって支えられ、推進していくことを想定しています。また、市民が本市の魅力を見出し、愛情と誇りに基づいて行動し、次の世代につなげていく「WE LOVE とよた」の取組を、計画の推進を根底から支えるものとして位置付けています。

本計画においては、まちづくりの主役である市民一人ひとりが、充実した「学び合い」を推進していくことを希求し、その素地となる資質・能力を育てていくとともに、「WE LOVE とよた」の取組を、各施策の推進を下支えするものとして展開していきます。



第8次豊田市総合計画



「WE LOVE とよた」ロゴマーク

3 計画期間

本計画の計画期間は、2018年度から2021年度までの4年間とします。

関連する計画の状況

関連する計画については、これまで、教育行政計画を上位計画と位置付けて策定していた「生涯スポーツプラン」「子ども読書活動推進計画」「ものづくり文化のまち構想」を、本計画に統合します。また、文化芸術分野における「文化芸術振興計画」については、本計画を上位計画として整合を図り、策定しています。

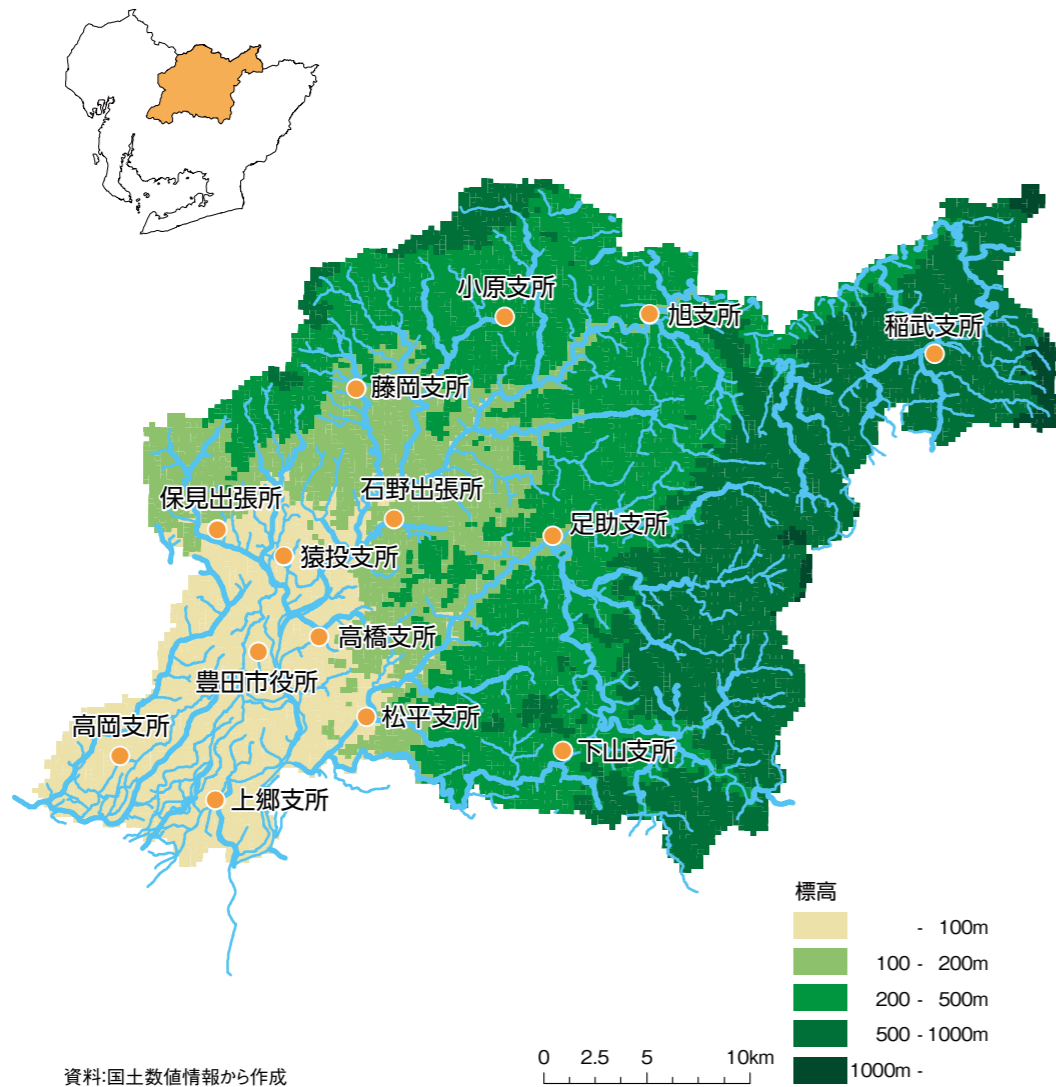
	(年度)								
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
総合計画	第7次総合計画 (2008～2016)				第8次総合計画 (2017～2024)				
教育大綱					教育大綱 (2015～)	第2期教育大綱 (2018～)			
教育行政計画	第2次教育行政計画 (2013～2017)				第3次教育行政計画 (2018～2021)				
スポーツ	第2次生涯スポーツプラン (2011～2017)				第3次教育行政計画に統合				
子ども読書	第2次子ども読書活動推進計画 (2012～2017)				第3次教育行政計画に統合				
ものづくり学習	第2期ものづくり文化のまち構想 (2013～2017)				第3次教育行政計画に統合				
文化芸術	文化芸術振興計画 (2008～2017)				第2次文化芸術振興計画 (2018～2025)				
子ども総合計画	子ども総合計画 (2010～2014)		第2次子ども総合計画 (2015～2019)						

4 市の概況

(1) 位置・面積・地形

豊田市は、愛知県の北部に位置し、東西 49.36km、南北 33.37km で、面積は 918.32km²であり、愛知県の市町村で最も大きくなっています。豊田市役所は標高 36.7m ですが、市内には標高 1,000m を超える地域もあるなど、多様な地形・自然条件を有しています。

豊田市の標高と河川の状況



資料:国土数値情報から作成

(2) 歴史

豊田市ではおよそ 3 万 5 千年前の旧石器時代から、人々の活動した痕跡が残されており、各時代を通じて豊かな歴史や文化が営まれてきました。市内の松平地区から誕生した松平家、その後の徳川家は、江戸時代の太平の世を築きました。

江戸時代の市域は、衣藩（後の挙母藩）、伊保藩、刈谷藩、岡崎藩や旗本領、寺社領（猿投神社領・隣松寺領等）が入り乱れる地域でした。

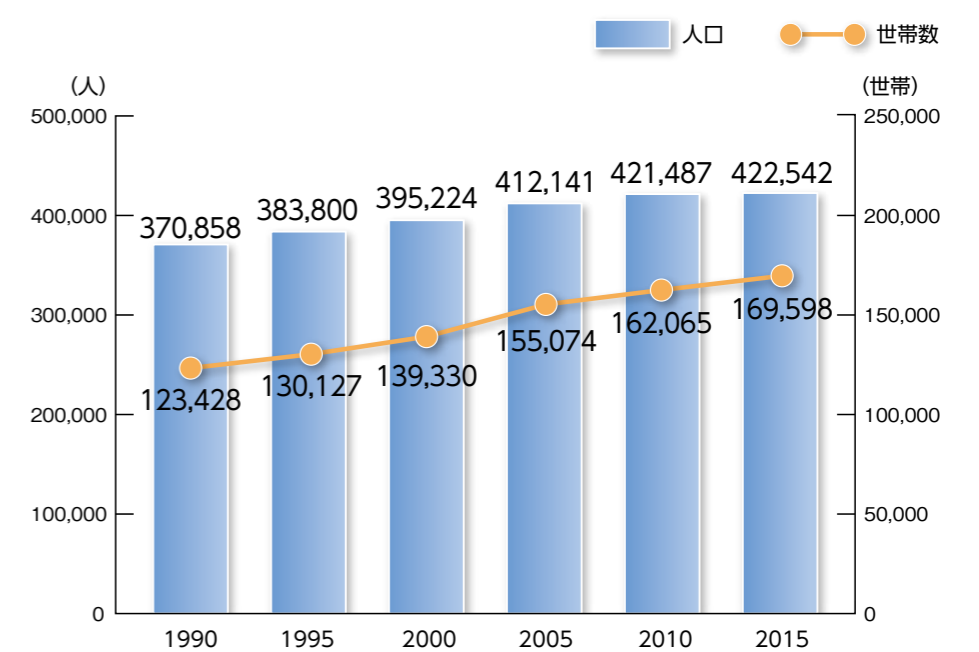
明治から大正にかけて、豊田市の前身である挙母町は養蚕・製糸業を中心に発展してきました。しかし、昭和に入って急速に需要が減少したことから、豊田自動織機製作所自動車部の誘致に取り組み、1938年にトヨタ自動車工業株式会社（現・トヨタ自動車株式会社）の挙母工場の誘致に成功し、「クルマのまち」として歩み始めました。その後、自動車産業が本格的に軌道に乗り始めたことから、1959年1月に市名を「豊田市」に変更しました。

また、1955年から1970年にかけて、高橋村、上郷町、高岡町、猿投町、松平町との合併を行いました。さらに、1998年4月には、県内で初めて中核市に移行し、2005年4月に、矢作川流域7市町村の合併により、多様な歴史・文化を有するようになりました。

(3) 人口

2015年10月1日現在において、人口は422,542人、世帯数は169,598世帯で、ともに増加傾向で推移しています。

人口と世帯の推移

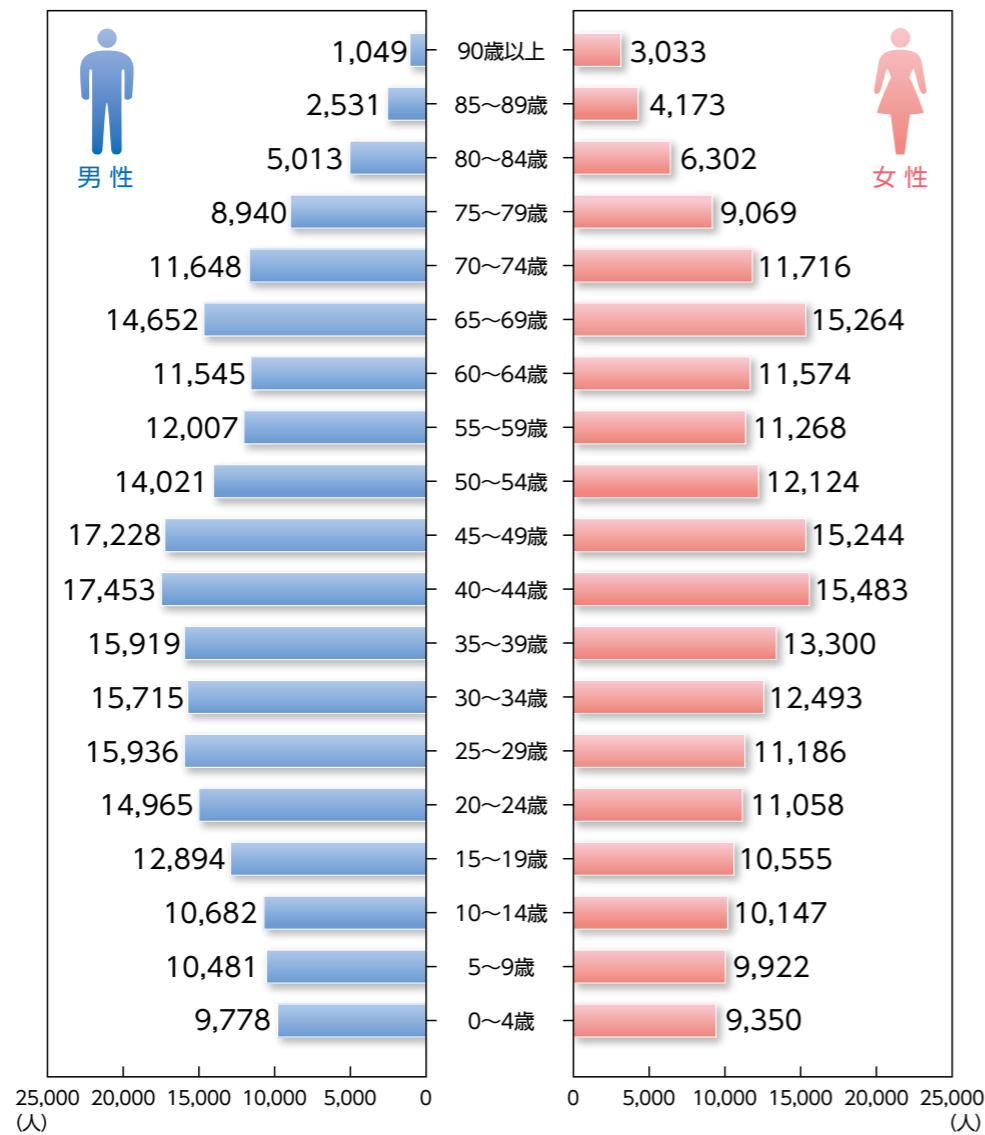


資料:総務省「国勢調査」

年齢別で見ると、65～69歳と、20歳代後半から40歳代で多くなっています。性別では、20歳代から50歳代前半で男性が多くなっています。

外国人は12,110人で人口の約3%を占め、国籍ではブラジル、中国、フィリピン、韓国・朝鮮の順に多くなっています。

男女別年齢別人口



外国人の国籍別人口

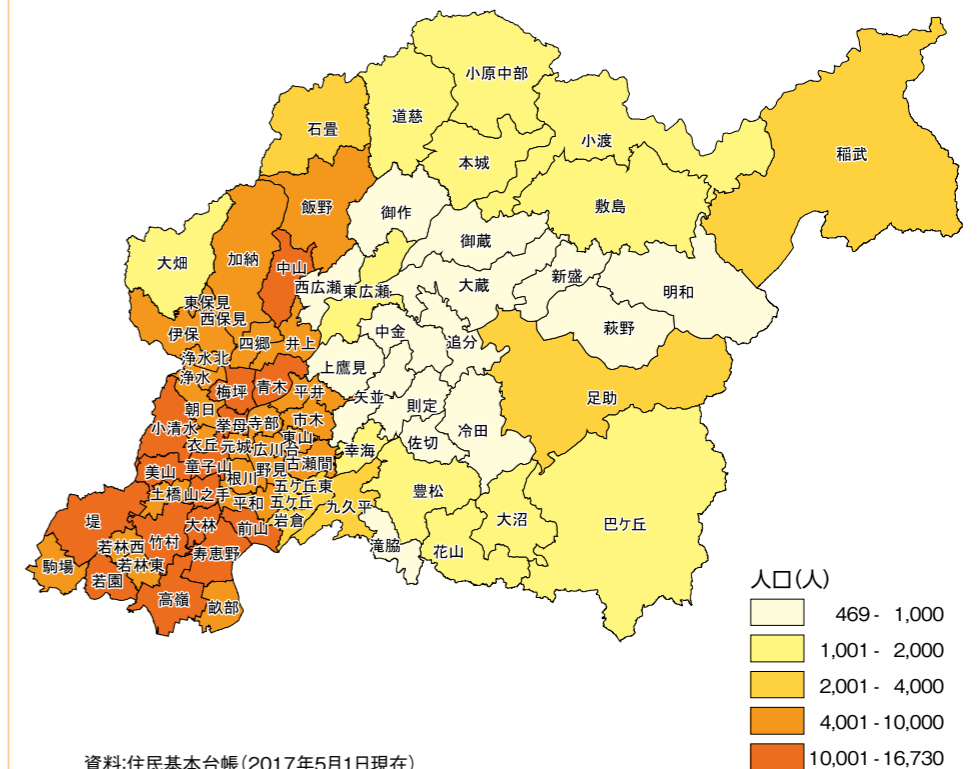
外国人総数	ブラジル	中国	フィリピン	韓国・朝鮮	ペルー	その他
12,110	4,516	2,187	1,358	1,138	577	2,334

資料:総務省「国勢調査(2015年)」

小学校区別の人口では、旧豊田市においては多くの小学校区で1万人を超えています。旧町村では1千人以下の小学校区もみられ、地域によって大きく異なっています。

今後の児童生徒数については、小学生は減少傾向、中学生はやや減少で推移していく見込みです。

小学校区別の人口



今後の児童生徒数の推計

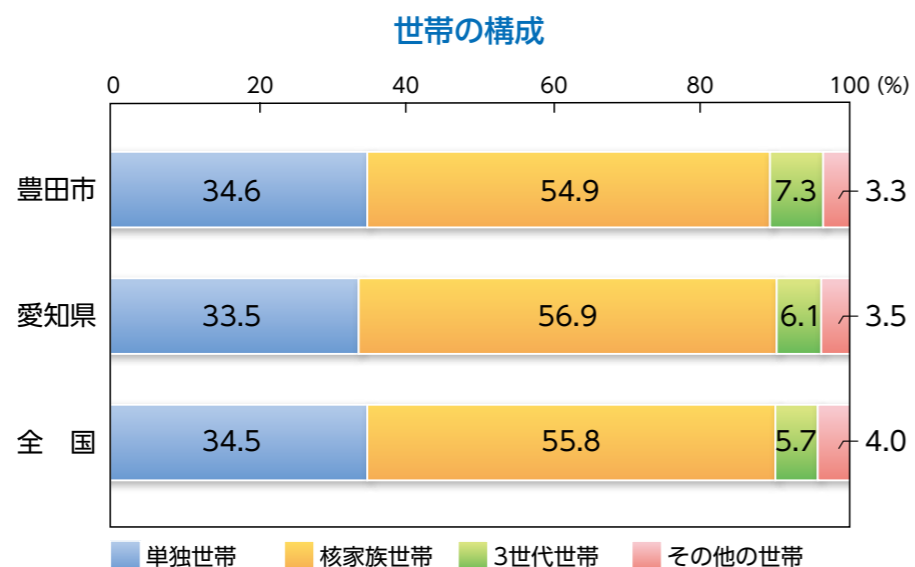
年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
小学生	24,404	24,406	24,247	23,904	23,677	23,431	23,146
増減数	-	2	-157	-500	-727	-973	-1,258
中学生	12,359	12,202	12,112	12,259	12,328	12,295	12,166
増減数	-	-157	-247	-100	-31	-64	-193
合計	36,763	36,608	36,359	36,163	36,005	35,726	35,312
増減数	-	-155	-404	-600	-758	-1,037	-1,451

資料:児童生徒推計表(2017年5月1日現在)
注:2018年度以降の人数は公立小・中学校への通学者数の推計値、増減数は2017年度比

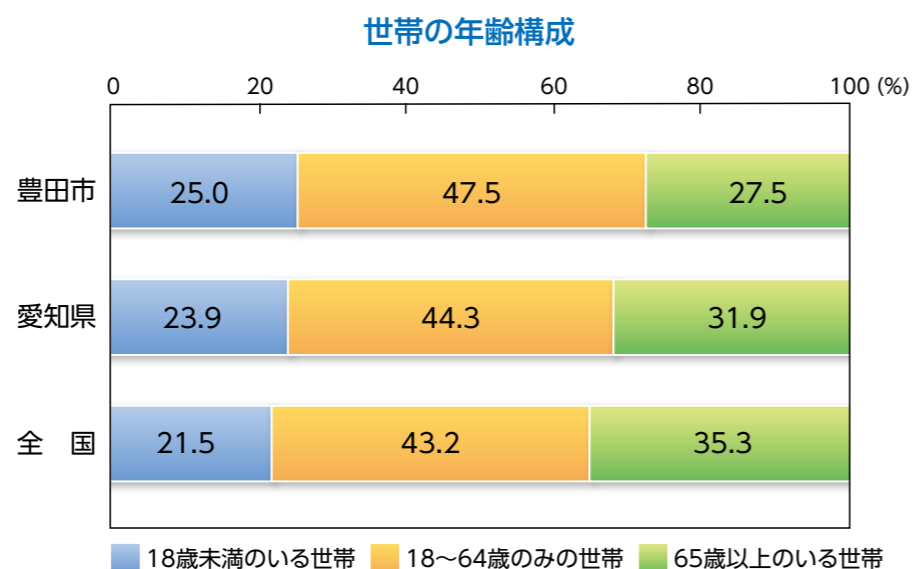
(4) 世帯

本市では、核家族世帯が54.9%と最も多く、単独世帯（ひとり暮らし）が34.6%と次いで多くなっています。愛知県全体や全国と比べて大きな違いは見られません。

18歳未満のいる世帯をみると、本市は25.0%で、愛知県全体、全国を上回っています。



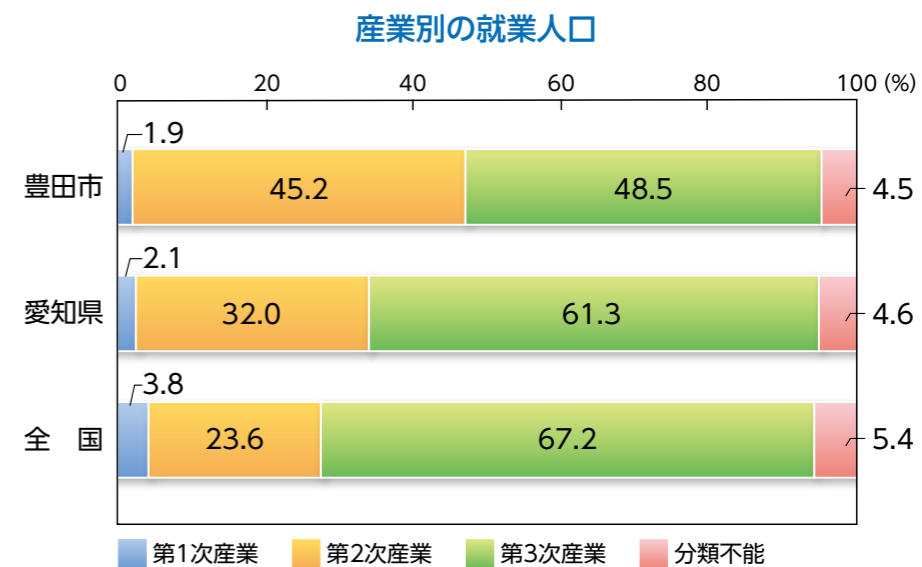
資料:総務省「国勢調査(2015年)」



資料:総務省「国勢調査(2015年)」

(5) 産業構造

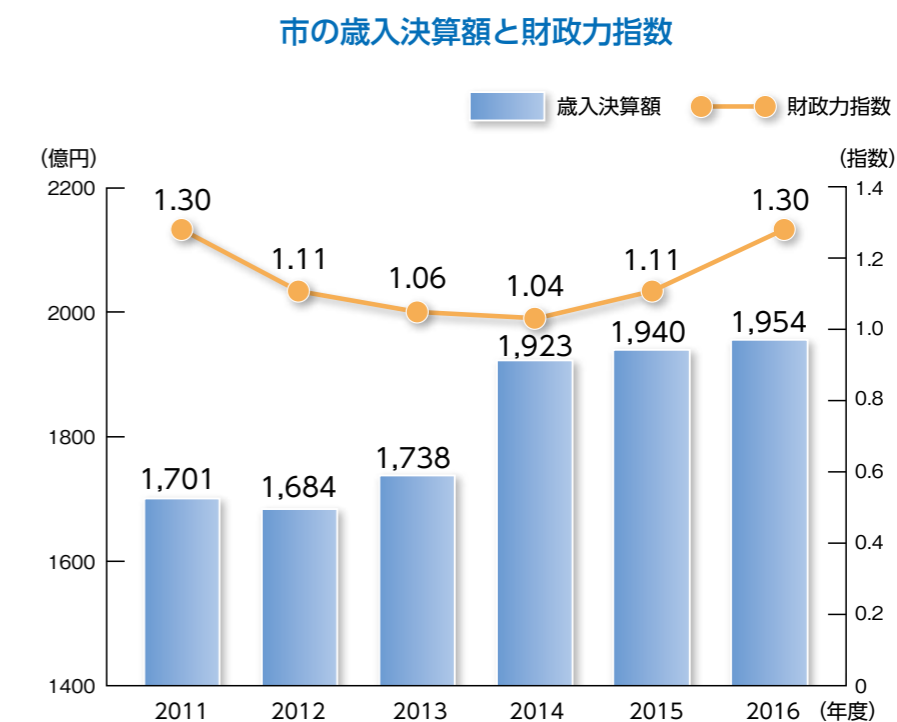
本市では、第2次産業（製造業・建設業等）の就業者が45.2%と愛知県全体、全国よりも大きく上回っています。



資料:総務省「国勢調査(2015年)」

(6) 市の財政

本市の財政力指数*について、2015年度以降は上昇していますが、国の税制改正、地方交付税の合併特例が終了するなど、歳入の減少が見込まれています。



資料:歳入決算額は豊田市、財政力指数は総務省

中核市全体から見た豊田市の特徴

本市においては、他の中核市と比べて、教育費の歳出、小学校数、教職員数、市民会館等・博物館・体育館等の施設数、図書館蔵書数など中核市の平均値を上回る項目が多くみられます。

(単位)	総人口				行政区域	教育費	
		0-14歳	15-64歳	65歳以上		面積 km ²	決算額 (2015年度)
	人	%	%	%	億円		
豊田市	422,947	14.5	64.3	21.2	918	301	16.1
中核市平均	394,871	13.2	60.3	26.5	422	170	11.0

(単位)	小学校(市立)			中学校(市立)			(市立以外)
	学校数	児童数	教職員数	学校数	生徒数	教職員数	学校数
	校	人	人	校	人	人	校
豊田市	75	24,501	1,635	28	12,362	894	1
中核市平均	52	20,408	1,310	25	9,975	738	3.6

(単位)	市民 会館等	公民館 [※]	博物館等	図書館	体育館
	施設数	施設数	施設数	蔵書数	施設数
	館	館	館	万冊	館
豊田市	14	28	19	176	14
中核市平均	4.3	26.9	5.9	98	7

※豊田市における公民館数は交流館数を記載

資料:中核市市長会「都市要覧」(2016年度)